

職員アンケート A=できている C=どちらかといえばできていない
 B=どちらかといえばできていない D=できていない
 前年度より △上がった ▼下がった

②自己評価および外部評価項目(55項目)

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
I 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	法人創設20周年を迎え、改めて理念に立ち返る一年だった。理念の一つ「常に自分をふり返る」をテーマにした内部研修を実施。地域の認知症の人に頼られる事業所であるように今後も努めたい。定例会議で理念をふり返っている。	・内部研修後の施設・スタッフの変化を知りたい。 ・理念の一つに、利用者さんのことを考えての理念はありますか？ ・地域の認知症の方に頼られるとは、どのように働きかけるのか知りたい。 ・地域との交流が増えたことは喜ばしいと思います。今後も少しでも参加できることが増えることを望みます。それと地域での報告ができる機会が増えるといいですね。 ・同じ目標に対して業務を行うことは重要であるため、今後も定期的に各従業員が理念を振り返ることができるように努めていただきたい。		・内部研修は3事業所合同で、理念と日常のつながりを話し合った。自己を知ることの大切さ、円滑なコミュニケーションには意識づけが要るといった学びがありました。 ・理念の中で「ゆったりとの人らしさを受けとめる」が最も利用者との関係があるが、主語は職員。利用者がどうなることを目指すのかという視点も必要だと気付かされました。 ・現状に加え、サービスの多機能化、憩いの場所、予防等で、この町の認知症の人や介護者に頼られる場所になりたいと思っています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	△	地域とのつながりは、ほぼコロナ禍前に戻った。地区のカフェへの参加回数を増やすことができ、ふだんから声をかけてくださるようになってくることがとても嬉しい。文化祭や防災訓練、お祭りなどに参加。地区内の散歩も日常的にしている。	・地区で開催されているコミュニティカフェに参加し、地域とのつながりが出来たが、事業所の施設を活用した交流の場(地域の方を招き入れる等)を施設として考えられないか？ ・地域との連携は実践することが困難だと思うが、貴事業所は地域の一人として大いに受け入れられており、日頃からの関わりの賜物だと感じる。 ・地域とのつながりが大変重要だと思います。積極的に参加してまいります。 ・地域との交流を実施してください。歓迎します。		・令和3年の2番館開設時に交流ルームを設けて、地域に開く活動を考えていた。コロナ禍を経て開始したい思いはあるものの、コーディネートする人材確保、継続できる内容等の課題があると考えています。 ・地域とのつながりを評価いただき、嬉しく思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	B	高校生のインターンシップや中学生の職場体験、赤ちゃんボランティアの保護者など、若い世代に知ってもらおう努力を続けた。町の認知症啓発への参加、認知症カフェ(ふきのとうカフェ・男たちのKAIGO)を運営している。		・若き元気な子供たちとの交流(職場体験)良いですね。	・若い世代との関わりはとりわけ重視しており、来てくれた子どもたちが、記憶に残る体験をしてもらえるよう努力しています。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	運営状況、ヒヤリハット・事故・苦情報告、職員研修状況等を報告。介護人材確保やBCP等も議論いただいた。保険者への事故報告義務の心構え、家族の思いを汲んだ苦情対応等、意見を基にサービス向上に取り組んだ。会議の議事録を誰でも見やすいように玄関付近に設置した。	・ヒヤリハット⇒改善事例、効果が見えにくい。もっと見える様にする(隠れた問題点)。 ・運営推進会議の役員について、昨年度自治会でも協力いただき幅広く選定するように要望しました。次年度の役員については今までの地域内の違う班にお願いすることとなりました。少しでも状況を地域の皆さんに知っていただくことが大事だと思います。		・介護事故・ヒヤリハットのふり返りは、課題を焦点化しやすいように工夫を重ねてきました。現状は月単位での評価になっていますので、再発防止の効果が出ているか、長い視点でも評価していきたいと思っています。 ・綾戸の地区内で、幅広い方が運営推進会議委員として関わっていただけることをありがたく思っています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	B	地域包括支援センターに運営推進会議委員を依頼。待機者状況でも連携。町より認知症カフェの運営を受託。キャラバンメイトの職員が1名増え、町の事業に協力している。	・少子化についてはいろいろ補助金等の関係増加については特に耳にしますが、団塊世代の超高齢化社会がきます。行政の補助金が少しでも増加できるように働きかけをと思います(物価が上がっていますので、運営も大変だと思います)。 ・町と情報連携をしながら運営をできており、また、町の事業に協力もしている。		・少子化、高齢社会、生産年齢人口の減少、物価高、社会保障費用の増大…私たちに関わりの近いことでも様々な社会課題があります。公的な補助金は、これまでも活用させていただいており、今後も情報を得て対応していきます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	虐待防止・身体拘束適正化委員会を年4回以上実施。身体拘束該当事例はないが、不適切なケアになりかねない事例を検討し、ケア検討や職員のフォロー、研修につなげている。玄関は夜間以外開錠。	・身体拘束をしないケアを実践できているが、身体拘束をせざるを得ない事例についても研究していただき、より適切なケアに繋げていただきたい。 ・不適切な事例は聞いた事がないので大変評価できます。 ・職員さんの心のケアを大切に。		・一歩違う方法をすれば、身体拘束との間のグレーな介護になりかねないことは時々あります。入居さんの状態をしっかり把握し、困りごとの理由から介護できるように今後も努力していきます。 ・混乱や不安状態の入居者が複数おられる時期は、職員も疲弊してしまいます。一人じゃない、チームで乗り越えて行こうとする職員集団でありたいと思っています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B	年3回実施の「虐待の芽チェックリスト」を、職員の意識向上につなげるように工夫した。施設虐待の事例を元に、虐待の背景、もしその場面を見たらどうするかを、時間をかけて話し合った。外部の研修にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
8		○権利擁護に関する説明と納得 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	制度を利用する入居者は現在いない。社会福祉士である管理者は、必要に応じて入居者・家族に情報提供できるよう学びを継続して準備している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	契約時は時間をかけて説明し、理解納得いただけるよう努めている。今年度は介護報酬改定、保険外負担の値上げがあったが、直接説明して同意を得た。利用料表や入居のしおりは見直しを加えて、分かりやすいようにしている。		・一番の不安は金銭的な事。より細かな説明が必要。	・入居時は利用料以外にも様々な書類があるので、1ヶ月のお支払いがどのようになるかイメージしてもらえように丁寧に説明していきたいと思えます。 ・看取り介護加算の説明に対して苦情があったので、ケアプランへの記載と開始時の説明を行うこととします。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	3ヶ月ごとの介護計画説明時、年1回の個別懇談を軸に意見把握に努力し、面談結果を運営推進会議に報告している。普段からのコミュニケーションを大切にしたいので、面談時にお声をかけるように努めている。その人らしい部屋作り、餅の提供方法等、家族の意見をケアに生かした。	・家族の方は毎回積極的に意見を出していただけますか？ ・お餅の提供のように、取り組まれた例を共有してもらえると張り合いになる。 ・利用者家族が運営推進会議に参加し、意見をいただいている。 ・声かけや相談を頂いていることにも感謝している。 ・コミュニケーション、声かけを大切にしておられるのがよくわかります。 ・本人はもちろん、家族の意見を尊重して実施され、良いと思います。		・ご家族個別懇談で要望・意見をとお聞きしても、数はあまり出てきませんが、入居者さんの暮らしへの思い、ご自宅におられた時との違いをお話ししていくと、介護のヒントがたくさんあります。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	C	今年度は、職員会議でグループワークを毎回実施、正職員ミーティングの新設、職員のアイデアを生かした行事計画に取り組んだが、評価が上がっていない。意見反映の仕組みだけで解決できるものではないと思うので、働く環境やモチベーションを上げる方法など、職員とともに考えていきたい。職員面談は、年2回実施。	・「職員会議でグループワークを毎回実施、正職員ミーティングの新設、職員のアイデアを生かした行事計画に取り組んだが、評価が上がっていない」とあるが、問題点は何か？把握されていますか。 ・アイデアを活かした行事を実施されたのに、本人のモチベーションにつながらないのは残念。 ・会議でも言いましたが、、意見を投函できる目安箱みたいな、方法をとってみてはどうですか。皆さんが投函しやすい様に、検討してみてください。(個人面談では話せない部分もあるのではないのでしょうか。評価の対象みたいになるので、悪いことは言えないことになることあるのでは) ・職員から意見が出やすいように普段からの関係づくりに尽力されたい。 ・行事の後や各イベント後、家族の声(アンケート)を取り、利用者家族の声も届けられると力になるのではと考える。		・昨年度の反省から、職員の意見が反映できる方法を取り組んだものの、その意図が次第に薄れ、意見を積み上げる会議と運営ができなかったことを反省しています。 ・100点満点の行事はないが、職員の一体感、やりきった感覚、良かったことを称え合う面が弱いかなと思います。 ・目安箱はこれまでも検討しましたが実施に至りませんでした。意見反映の評価が低い状況が続いており、やってみて考えることも必要かと思っています。 ・行事の反省は職員のみでしてきたので、入居者・ご家族の声を生かせる方法を考えてみます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	C	「上司に意見を言おうとしても却下されそうで言えない」「言っても無駄だ」という諦めムードがある」「個々の努力を認めてもらうことが少ない」この自己評価での意見である。この意見が無駄になったと思われぬように、何を伝えようとするか伝え、良くなったと実感してもらえようようにしたい。		・意見→提案ではないか。「却下されそう。無駄」と感じる理由があるはず。「忙しい。後にして」等続くと「否定」につながる。互いに話す、聴く姿勢が伝われば。 ・研修はとても大事なことだと思うのでなるべく参加してもらいたい。そのつど感想文を出してもらいたいですね。	・現場職員がこのように感じていることは、管理職がきちんと受けとめて反省しなければならないと思っています。23人の職員とこまめに、努めて話すことから始めていきます。 ・介護で働く人に漂う閉塞感もあると思います。活力ある職場を維持する難しさを、年々感じています。 ・研修の報告・感想は、全て提出・回覧しています。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	移乗介助、感染対応の基礎、止めようとしないう認知症ケアの内部研修を実施。新規採用職員は育成プログラムに沿って、面談、レクチャー、達成度評価をしている。虐待や移乗など、よく似たテーマの研修が増え、自由参加募集した研修への参加意欲が下がっていると感じる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A	竜王町主催の介護職員キャリアアップ研修、近隣7グループホーム合同の勉強会、東近江圏域のグループホーム部会、グループホーム全国大会に参加し、同業者と顔の見える関係を築き、各現場の生の声に刺激を受けている。		・交流会の参加良いですね(継続)。	・近隣のグループホームとの交流は、参加者数が減っていることを心配しています。人員の余裕のなさもあると思います。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	B	入居から1ヶ月程度は職員間で情報共有をし、関係作りをしている。地元出身・在住の職員もおり、昔話や地元の話題に安心感を抱かれる新規入居者は多い。今年度は新規が少なかったが、初期に必要な関わりの多い方が続き、達成度が十分とは言えなかった。			

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	B	申込み段階から、本人とご家族の思いが理解できるよう努めている。入居時の心配ごとは個人差が大きいことから、柔軟に対応するようにしている。職員個々にご家族との関係作りは、まだ不十分だと感じている者が多い。			
17		○初期対応の見極めと支援サービスを利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	B	申込時から始まり、入居時には丁寧にアセスメントし、こまめに支援内容を調整している。自宅でのケアマネジャーやサービス事業所にも助言を求めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	C	わが家のようにしゃべってもらい、入居者とともに喜び、悩みたいと職員は思っている。「入居者がそばにいてくれて嬉しい職員像」を話し合い、「その人らしさを考え、その人のペースに合わせたケアができる職員」を目指したいとなった。目標への到達はこれからのので評価が低くなった。		・大切にしていると感じている。安心してお世話して頂いていることを本人も感じていると、会う度に感じている。	・グループホームらしい温かさを大切に、目指すべき職員像に近づけるようにします。
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	B	ご家族はケアに不可欠な存在。外出、受診介助、物品補充等、家族が関わってもらえるようお願いしている。感染症発生中を除き、面会は継続できている。		・入所している側なので意見もありません。それではいけないと思うのですが…。寄りそってできる支援をお願いします。	・ご家族は遠慮せざるを得ないことを心に留め、普段からのコミュニケーションを大切にします。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	コロナ禍前と比べても、ご自宅に帰られる方、友人と外出される方、地元のカフェや認知症カフェに継続参加される方が何人かおられ、入居してもつながりを維持できている実感がある。	・たとえば各地区で催される文化祭等での情報を収集して、できる方は参加されてみてはどうですか。自分の地元であればそれなりの愛着があるのではと思います。 ・参加率はどれくらい？ 目標は設定していますか？ 今後、管理していくようにしましょう。		・入居者個々の地元とのつながりは、本人の意向、ご家族の協力を確認しながら、進めていきます。 ・個々の身体能力、認知症の状態の差、他者との交流を望むか等で、外出参加率は差が出てしまいます。参加者の記録をし、幅広く参加してもらるようにしています。
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	B	リビングでは入居者間の関係に配慮し、居心地の良い環境づくりに努めている。認知症からくる混乱や不安から、入居者同士が対立する場面もあるが、介護計画によって個々を支援して、解決をめざしている。			
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	B	自宅に戻るための利用終了があった。終了後1ヶ月はショートステイ利用もあったので、家での介護が大変すぎているか相談に乗っていた。もし今後、再入居を希望されることがあれば、可能な限り対応したいと思っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	B	目指す職員像は「その人らしさを考え、その人のペースに合わせたケアができる職員」。入居者の意向をどのように把握し、限られた時間の中でどう関わっていくのか、介護職はジレンマも感じるが、ケアの基盤として大切にしていきたい。	・入居者一人一人の思いや暮らし方を把握するのは大変難しい事だと思えます。ただ、その方の長所や短所、特徴などを職員間で共有することは、介護職員として大事な一歩につながります。既の実施されているとは思いますが、施設内でのケア会議等で検討下さい。 ・職員の方の話を聞いても、前向きに考えておられる事がよく分かります。 ・面談時にはいつも声かけして頂き、介護面談時にも細かく聞いて下さっているので、十分なケアと感じている。面会のたび、母の顔が穏やかで和んでいる。日々のケアの賜物と感じている。		・その方のことを知る、状態を見極めることは介護の基本だと思います。職員個々が意識して得た情報を、チームで共有する姿勢を大切にしたいと思います。 ・面会時のご様子やお顔から、日々の様子をご家族が喜ばしく思ったださっていることを嬉しく思います。
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	B	入居前後の面接でこれまでの暮らし、認知症発症からの経過等を詳しく聞き取り、記録している。これらを活かして本人との関係を築いたり、サービスの工夫につなげている。			
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	C	本人の能力をあきらめず、力を発揮していただきたいと考え、家事や軽作業を入居者とともにやっている。職員をユニット分けしていないので、18人の把握ができていないので、自己評価できない、記録と申し送りが不十分と感じる職員が、評価を低かった。		・入居者さんの出来ることを奪うのではなく、出来ることで活躍してもらるのは本当に有り難い。	・できることは応援して、できたことを喜ぶ純粹さをこれからも持っていたいと思います。 ・職員のワンチーム体制のデメリットと言えますが、メリットの方が大きく継続予定ですので、デメリットが小さくなるよう改善を重ねます。

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答		
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	担当職員とケアマネジャーを中心とした、介護計画策定のためのカンファレンスやプロセスが定着してきている。認知症の行動心理症状の定期的アセスメントを開始した。介護計画は少なくとも3ヶ月に一度は見直し、家族に面談して説明、同意を得ている。		・介護計画は難しいと思いますが、どれくらいの時間で仕上げてもらえますか。		・前回計画の評価、現状の把握、職員会議、計画の作成、入居者・家族への説明、介護の実施という一連の流れを一気にするわけではないので、大まかな時間ですが、新規なら8時間、更新なら2〜3時間程度だと思います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	C	記録のデジタル化初年。記録時間の短縮、共有のしやすさ、データ抽出の早さ等の良い面と、記録の力に差が出ていたり、大事な情報の選別等に課題がある。1年が経過した中で、職員間で課題を話し合いながら、見直しを進める時期と考えている。				・今やスマホで何でもできる時代です。特に職員さんの方々にオープンなグループラインを作り情報の発信をされて見てはどうですか。綾戸農事組合法人でも会員さんに向けて作成しました。いろんな情報が確認でき便利です。検討されてみては、できないで済みますのではなくトライも必要と考えます。ほぼ大半の方が使えるようにはなりました。 ・情報をいかに生かすかが課題。注力してください。	・ご家族の連絡にLINEを使っています。現在10家族が利用。 ・職員のLINEグループを作っています。LINE上で介護検討することは避けたい、3交代勤務なのでプライベートを拘束したくない等の理由で、仕事上の連絡は職場で行うことを基本とし、LINEは緊急連絡用です。活用の可能性が他にもあるか、トライする姿勢で考えます。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ育つニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	「竜王 男たちのKAIGO」の会場となった。空床利用の短期利用を1年間で2名受け入れ、今後の可能性が拓かれた。歯科関係やリハビリ専門職とは連携可能な体制があり、ニーズに臨機応変に対応している					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A	△ 入居者個々の地元自治会から、直接または家族づてに見舞いが届くことがある。100歳を迎えた入居者には地域からの多くのお祝い訪問があった。民生委員の傾聴ボランティアは継続。学童さんの事業に協力する等つながりが再開した。					
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	入居時に主治医の継続か、協力医療機関への転医か選択してもらっている。現在は全員が協力医療機関による健康管理(月1回の訪問診療と月3回の訪問看護)を選択。専門医等の受診は家族の協力を得ながら進めている。		・かかりつけ医の取り組みには、評価したいと思います。ただ、保険証のマイナンバー移行による取り組みについて、個人情報保護の観点からどのようにされてゆくのか、ご検討願います。		・マイナ保険証について、在宅医療の現場でもまだ見通しが持っていないようです。今年7月の切り替えに向けて、病院と連携して準備していきます。介護保険証もマイナンバーカードと一体化して行く方向ですが、期限はまだ決まっていません。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	A	月に3回の訪問看護により、担当の訪問看護師と連携を密に支援しており、入居者の状態もよく把握してもらっている。介護職の小さな気づきも、遠慮せずに質問や相談ができる関係にある。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	△ 転倒・骨折後の入院期間が短いケースが2つ続いたが、病院と連携してスムーズなグループホーム復帰につながった。本人や家族と病院をつなぐ役割を心がけ、不安や心配があれば代弁できるように努めたい。				・ふだんの行動も医師に伝えておられますか？ 不安を安心に変えていって下さい。	・特に近江八幡市立総合医療センターとの間では、担当ソーシャルワーカーを通して、グループホームのふだんの様子、退院後の暮らしを見据えた連携ができています。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	入居時に、重度化・終末期ケアに関する指針について説明、同意を得ている。希望があれば、家族や医療機関と密な連携のもと、お看とりのケアをしている。令和6年の死亡終了者は2人で、2人ともグループホームでのお看とり。家族の不安が大きかったので、家族支援に力を入れた。		・グループホームで看取ったということは、グループホームを住み慣れた住処とっていただいているということと、看取りケアを行える体制やノウハウがあるということだと思われる。従業者を含めた関係者全員が悔いの残らない看取りとできるように努めていただきたい。 ・転倒を知らせるブザーの件は、改善されておりますか。		・看とりの場として、自宅、グループホーム、病院といった選択肢をお示ししますが、8割以上の方がグループホームを選択されます。 ・希望の家18年の歴史の中で、29名をグループホームでお看取りしました。今後もお一人おひとり丁寧にケアをしていきます。 ・ブザーの運用方法は改善しました。機器そのものは検討中です。	

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	1日のうち10時間30分がユニットに1人の勤務であり、職員が不安を感じない体制を作っている。急変や事故時に職員が苦勞しないよう、24時間、緊急時対応ができるようにしている。採用時に説明するとともに、職員会議で確認している。事例に即し、誤嚥・窒息時の対応研修を行った。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	今年度より、年度初めの運営推進会議で、自治会長と災害への備えと連絡体制を確認することとした。消防訓練は年2回・防災訓練を年1回、災害からのBCP訓練を年1回実施。	・災害発生は時間を問いません。非常時に備え、日頃からの訓練が大切です。地域との連携、職員の初動活動はどのようにすべきか？地震、台風、火災等の災害想定を基に、多様な訓練の実施に努めて下さい。 ・先日竜王町で濁水事故がありました。1か所の事故で町内全体が水道水が汚れるということになりました。その時は、どのように対応されていたのでしょうか。(そういうことのための防災準備が必要だと思います。町の職員さんには大変だったと思いますが、ある意味いい経験だったと言っておられました。)備蓄品と水と電気が一番大切だと思います。今後も推進していただきたいと思っています。 ・地域と協力ができていて良い。 ・訓練は続ける事が一番重要です。自治会の防災訓練にも引き続き参加をお願いします。		・近年の災害、介護施設の被災を受けて、災害関連の計画、訓練の義務づけが増え、根拠法が違うことから複雑になっています。私たちにりに咀嚼しながら、現場スタッフまで身につく、必要を実感できる訓練を継続していきます。 ・濁水事故時は竜王町から直接連絡もいただき、当座の水を備えることができました。水道が使えない時に、備蓄水はあっという間に減っていくことを実感しました。給水場所へも水もらいに行きました。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	「その人らしい暮らしを支える」自分たちで考え辿り着いた認知症ケアの理念を、実践に生かそうとしていることが、評価が上がった理由と思われる。認知症の入居者は嫌なことや傷ついたことを訴えることができない。私たちは尊厳やプライバシーを守る存在でありたい。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	B	小さな集団で長い時をともに過ごす。だからこそ表情や動きで感じ取れることがある。小さなサインに気付き、意思表示がしにくくなっている方の思いにも応えていきたい。言葉を大切に聞き取ることは当たり前のようで難しい。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	入居者の生活の流れに職員が合わせていく方が入居者の混乱もなく、穏やかな暮らしとなる＝「入居者に合わせるケア」。簡単ではないが、昨年のサービス評価の反省から、このことを意識できる職員が増えた。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	B	髪形や髭剃りといった日常の身だしなみにも気配りを大切に、衣服はおしゃれを楽しめるよう努力している。化粧品は家族の協力を得て本人の思いに沿うようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B	湯せん調理と自施設調理と組み合わせて食事を準備している。食器拭きは毎食入居者が、地域や家族から野菜をたくさんいただくので、それを入居者が切ることもある。お彼岸や十五夜、節分等、季節に合わせた食事とともに作っている。	・入居者の方も食事が楽しみの一つだと思います。食材で季節が分かるのもいい事だと思います。 ・共同作業は良い取り組み、		・季節の野菜を持つだけでも、お話が弾みます。見る、ふれる、香り、食べる…準備から片付けまで、様々な形で楽しんでいただけるよう努めます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	C	体重や嚥下機能、希望等をふまえ、食事形態や量を考えている。水分が少ない方は、種類やタイミングを工夫。評価が下がったのは、記録と申し送りの不十分さから。食事量や水分量を毎回記録。体重測定は月1回。			

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	口腔衛生管理体制加算算定。毎月、歯科衛生士の指導があり、その方に応じた口腔ケアを実施。必要に応じ、協力医療機関の歯科の往診が可能。義歯は定期的に洗浄剤で消毒洗浄。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	B	13名がリハビリパンツやオムツ使用。固定の時ではなく、一人一人の状況に応じてトイレに行く等、個別の排泄介護に努めている。居室からトイレは遠くないので、ポータブルトイレの使用は極力少なくしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	下剤を第一選択としないように、牛乳や乳製品を活用している。野菜の多い食事、個別の介護計画で水分摂取を工夫するなど努力。重度化しても本人に負担のない範囲で、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	B	入浴の回数や時間は均等な対応ではなく、頻繁に入りたい人・入りたくない人、必要性・自立度などに応じて対応している。職員体制から入浴可能日・時間帯は週2～3回の入浴を基本に、その日の気分や急な体の汚れがあれば柔軟に対応している。	・毎日の入浴は、介護スタッフや入浴時間の関係で困難かと思えます。しかし、夏季と冬季とはまた条件も変わってきます。体を清潔に保つために、夏季での工夫は何かされていますか？ ・入浴時の補助の設備を見ました。この設備を使えるようになるには、だいぶ時間がかかるのですか。		・適切な空調管理で、真夏でも発汗による着替えはほぼありません。皮膚のトラブルもありませんので、夏も週2～3回の入浴になります。 ・お風呂のリフトは、通常の入浴介助ができるようになった職員であれば、2～3時間で使いこなすことができます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	その方の寝たい、起きたい時間に沿って対応。眠れないことが続けば、行動や心理状態の変化も踏まえて対応を考えている。日中は本人の体調や希望に合わせて、居室での昼寝など声かけしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	最新の薬情報は職員がすぐに確認できる場所に設置。薬剤師とは気軽に相談できる関係にある。薬関係の事故やヒヤリハットを減らすために、薬の形態変更の相談や、薬袋の工夫などに努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	無理せず、できる範囲で家事や軽作業への参加を支援。役割があることが生きがいになるようにと思っている。ただ共同生活の中でもっと楽しみや役割を持ってもらえるのではと思う職員もおり、評価が下がった。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のひと々と協力しながら出かけられるように	再開 B	家族との自宅への帰宅や日帰り旅行、知人との買い物など、なじみのつながりを持って外出できている人数が、比較的多い状況。お花見や外食では、入居者さんにとってなじみのある所へ出かけた。散歩は積極的にしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	再開 B	金銭所持することで安心感が得られる等の理由がある方は、ご家族と相談の上、所持している。知人や家族と買い物に出かける人はあるが、感染症対策もあり、職員との買い物はあまりできていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	人数は少ないが、希望者は家族に電話したり、ビデオ通話している。携帯電話を所持している人もいる。手紙が届くことや、電話がかかってくることはあるが、こちらからすることは少ない。キーパーソン以外の近親者に広報と写真を送っている。			

自己	外部	項目	自己評価		委員からのご質問		グループホームからの回答
			職員アンケート	実践状況	外部評価項目	その他の項目	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	清潔さと快適な匂いで、従来の介護施設の印象を変えたいと努力している。日差し、外気に気を配りながら、室温や明るさのこまめな調整を心がけている。四季の花、飾り物で季節を感じていただきたいと思っている。	・1番館のリフォームは考えておられないのですか？ お風呂場が狭く思うのですが、動きにくくありませんか？ 廊下も手すりはつけないのですか？ 広くはできないのですか？ ・外の景色がゆっくり見られる場所があると良いなと思いました。 ・綾戸のグループホームは、清潔さと快適な匂いで、空間が用意されています。清潔でそれなりの居心地の良い空間だと思います。 ・いつも清潔にして頂いていると感じている。施設や病院のように独特の臭いもなく、こまめな洗濯もして頂いているので、本人も心地よく過ごさせて頂いていると思う。 ・49項もそうですが、入居者の方を一番に考え、施設も明るくきれいにされている。		・開設から18年となる1番館は順次、機器の更新や居室のリフォームをしています。お風呂を含む水回りの手狭さは課題であり、先延ばしせずに検討します。 ・廊下に手すりを設置すると、車椅子の移動に支障が出るため、難しいのが実態です。 ・共用空間の掃き出し窓が限られています。行方不明を防ぐ目的はあるのですが、座りながら外を眺める場所が少ないことは否めません。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	△△ A	リビングは皆で過ごすことも大事だが逃げ場も必要で、様々な空間を作りたいと努力している。1番館は家具も含めて大きな見直しを行い、2番館も状況変化に合わせて柔軟に空間を変えている。ペットとの入居を特例ではあるが許可し、他の入居者の楽しみにもなっている。		・あたりまえですが、必要な物以上に置かない、これが最後は楽になると思います。	・お年寄りが暮らす空間は、良い意味でごちゃごちゃして、物に囲まれているのが良い。生活感のある介護施設もそれが良いと、15~20年前は言われていたように思います。今や昭和二桁が入居者の中心となりました。そこにフィットする空間作りをしていきます。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	個人差はあるが、自宅で慣れ親しんだ家具や飾り物等を持参されている。入居後の生活に合わせて工夫しながら、写真を飾ったり、できるだけ居心地の良い空間となるよう努めている。	・使い慣れたものが使わなくともあるのはとても幸せだと考える。部屋に孫の写真やイベントの写真・作品の掲示があるのは家族にも和みや癒やしとなっている。		・その方にとって馴染みの物がある、その方にとって大切な人の写真がある…その方を知るきっかけであり、お話の材料であり、職員の思いも居室に現れていると思います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	B	動線に合わせた口腔ケア用品の設置、入浴日の掲示など、必要に応じて改善。入居者の視点の高さや認知機能に配慮して工夫を続けたい。			

ここまでご記入いただき、ありがとうございました。

振り返っていただき、希望の家の「優れている点」「工夫している点」「評価できる点」等をご記入ください。この項目は自己評価の表紙の項目に反映します。

<p>【優れている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方を一番に考えておられる。 ・施設等を明るくきれいにしている。 ・本人や家族の思いを可能な範囲で把握するようにし、その人らしく暮らし続けるように支援できている。 ・職員間のコミュニケーションが取られている。 ・地域の行事、訓練等にも積極的に参加されている。 ・清潔感。 <p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節にあわした行事等を行っている。 ・食材、飾り等を考えて使っている。 ・季節の行事・掲示物による季節の変化への刺激。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町との連携。 ・地域との連携がよくできている。 ・協力医療機関との連携がよくできている。 ・職員の方のケアの意識の向上。 ・問題点に正面から向き合っておられる。 ・問題に対する良くしようとする姿勢。 ・利用者・利用者家族とのコミュニケーション。 <p>【今後期待したい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災備品の再点検(発電機の導入・水の確保・防犯カメラの設置) ・デジタル化の推進(記録用のパソコンが小さいので大きいモニターの購入検討) ・会議の進め方(事前配付資料による討議時間の短縮) ・行政の補助金の獲得推進 ・綾戸地区での報告アピールと協力依頼(自治会組長会・文化祭等での) ・人が相手なので色々あると思いますが、互いに頑張りたいですね。
--	---